



## 日本飼養標準・乳牛(2017年版)

A4判 253ページ、CD-ROM付

価格:3,500円(税別)

※送料は実費ご負担願います。

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 編

### ○ 主な内容

2006年版の発行以来、約11年ぶりの改訂となった本書は、昨今の酪農情勢を反映させ、泌乳持続性が高い乳用牛への改良の推進、生産コスト低減、飼料自給率向上の観点から、放牧の活用、耕畜連携等による稲WCS等の粗飼料、飼料用米の利用、未利用資源の利用推進、搾乳ロボットに対応した飼養管理技術などが記載され、より実情にあった内容となっています。

#### 序章 飼養標準改訂の基本方針および本飼養標準の構成

##### 1章 栄養素の単位と要求量

1. 1乾物摂取量 1. 2エネルギー 1. 3蛋白質 1. 4無機物 1. 5ビタミン

##### 2章 養分要求量(I)

2. 1雌牛 2. 2種雄牛

##### 3章 養分要求量(II)

3. 1水分要求量 3. 2無機物要求量

##### 4章 養分要求量に影響する要因と飼養上注意すべき事項

4. 1雌牛の発育曲線 4. 2早期離乳と哺育期の飼養 4. 3育成時の飼養 4. 4初産・2産次の飼養 4. 5分娩前後の飼養 4. 6高泌乳期の飼養 4. 7双胎妊娠時の飼養 4. 8粗飼料多給時の飼養 4. 9暑熱時の養分要求量 4. 10寒冷時の養分要求量 4. 11放牧時の養分要求量 4. 12ジャージー種乳牛の飼養

##### 5章 飼料給与と注意すべき事項

5. 1第一胃内発酵と飼養管理 5. 2飼料中の繊維 5. 3乳成分に及ぼす飼料給与の影響 5. 4地域資源の利用 5. 5ふん尿排せつおよびメタン放出の低減と栄養管理 5. 6安全な畜産物生産と飼料添加 5. 7代謝・栄養障害

##### 6章 群飼と給与飼料中の養分変動

6. 1群飼による飼養管理技術 6. 2TMR給与飼料中の養分含量 6. 3既存の能力牛の栄養管理上のポイントと泌乳持続性 6. 4乾乳期短縮技術および分娩間隔との関係 6. 5日本飼養標準での泌乳平準化のえ方

##### 7章 群飼と給与飼料中の養分変動

7. 1群飼による飼養管理技術 7. 2搾乳ロボットによる搾乳時の飼養管理技術 7. 3TMR給与飼料中の養分含量

##### 8章 飼養標準の使い方と注意すべき事項

8. 1飼料成分の変動 8. 2飼料給与量に乗ずる安全率 8. 3飼養標準とコンピューター 8. 4添付ソフトウェアの利用法

##### 9章 養分要求量の算定式

9. 1使用記号一覧 9. 2雌牛の育成に要する養分量 9. 3成雌牛の維持に要する養分量 9. 4妊娠末期に維持に加える養分量 9. 5産乳に要する養分量 9. 6乾物摂取量の増加に伴う養分量の補正係数 9. 7養分要求量の算出例 9. 8種雄牛の育成における養分給与量 9. 9種雄牛の維持における養分給与量

参考資料 1 種雄牛の飼養と発育 種雄牛の発育曲線 種雄牛の飼養法

参考資料 2 資料成分表

申 込 書 公益社団法人愛知県畜産協会あて(FAX 052 - 968 - 2075)

(日本飼養標準・乳牛【2017年版】)

申込部数 : 部

注文年月日 : 平成 年 月 日

ご注文者

住 所 : 〒 -

氏名または団体名等 : \_\_\_\_\_

[団体の場合] ご担当者 : \_\_\_\_\_

TEL : \_\_\_\_\_ FAX : \_\_\_\_\_

通信欄